

アート学科
絵画表現コース

Fine Arts

FA

2021年度 アート学科 絵画表現コース 2年次

☆マーク:2・3年合同

科目名	授業分野	担当教員	開講期	時間割	教室	単位
絵画表現1						4
	○△☆絵を知る1	甲斐/齋藤	前	火3/4	331	
	○△☆絵を知る2	甲斐	後制	火3/4	311	
絵画表現2						4
	☆絵を生かす1	羽賀洋子	前後制	火1/2	331	
絵画表現演習1-1						6
	*すべて必修					
	○△☆古典技法画1	崔恩景	前	月1/2	331	
	☆総合制作A-1	手塚真梨子	前	月3/4	331	
	☆油彩画(人物・静物)1	金子修	前	木3/4	432	
	☆総合制作B-1	大城夏紀	前	水3/4	311	
	版画1銅版画F	飯島まり子	前	土1/2	401	
	○△版画1シルクスクリーン	馬場恵	前	木1/2	401	
	○前期講評	担当教員全員	前	調整週/2日間	331	
絵画表現演習1-2						6
	*すべて必修					
	☆特別演習2(特講数回)	特別講師	後制	水3/4	331	
	☆総合制作A-2	手塚真梨子	後制	月3/4	331	
	☆油彩画(人物・静物)2	金子修	後	木3/4	432	
	☆版画2	馬場/飯島	後制	水1/2	401	
	○☆総合制作B-2	齊藤有紀	後制	月1/2	331	
	○フェスタ展示	甲斐/助手	後	準備週/2日間		
	○後期講評	担当教員全員	後	調整週/2日間		
修了制作						6
	○制作指導	FA教員		上記授業時間外	各教室	
	○修了制作審査/講評	担当教員全員	制	制作週後/2日間		

※講評、展示等の日数は変更になる場合があります。

卒業に必要な修得最低単位数

科目種類	1年	2年	3年	合計単位
2020年度 入学生				
専門科目	33	26	26	85
学術造形科目		6	6	12
	33	32	32	97

※学術造形科目は3年間で12単位以上修得が条件です。1年間の単位修得数は目安になります。

○=実務教員授業

△=高等教育無償化申請

2021年度 アート学科 絵画表現コース 3年次

☆マーク:2・3年合同

科目名	授業分野	担当教員	開講期	時間割	教室	単位
絵画表現3						4
	○☆絵を知る3	甲斐/齊藤	前	火3/4	331	
	○☆絵を知る4	甲斐	後制	火3/4	311	
絵画表現4						4
	☆絵を生かす2	羽賀洋子	前後制	火1/2	331	
絵画表現演習2-1	*前期(2-1):総合制作は必修/その他、2授業分野以上を選択必修					6
(選択必修)	○古典技法画3	崔恩景	前	月1/2?	331	
	総合制作A-3	手塚真梨子	前	月3/4	331	
(選択必修)	油彩画(人物・静物)3	金子修	前	木3/4	432	
	総合制作B-3	大城夏紀	前	水3/4	331	
(選択必修)	○版画3	馬場/飯島	前	水1/2	401	
	○前期講評	担当教員全員	前	調整週/2日間		
絵画表現演習2-2	*後期(2-2):総合制作+特別演習は必修/版画のみ選択必修					6
(必修)	総合制作A-4	手塚真梨子	後制	月3/4	331	
	○総合制作B-4	齊藤有紀	後制	月1/2	331	
	特別演習4(特講数回)	特別講師	後制	水3/4	331	
(選択必修)	○版画4	馬場/飯島	後制	水1/2	401	
	○後期講評	担当教員全員	後	調整週/2日間		
卒業制作						6
	○制作指導	FA教員		上記授業時間外	各教室	
	○卒業制作審査/講評	担当教員全員		制作週外/2日間		
	○卒業制作展 展示	甲斐/助手		制作週後/1週間		

※講評、展示等の日数は変更になる場合があります。

卒業に必要な修得最低単位数

	科目種類	1年	2年	3年	合計単位
2019年度 入学生	専門科目	33	26	26	85
	学術造形科目		6	6	12
		33	32	32	97

※学術造形科目は3年間で12単位以上修得が条件です。1年間の単位修得数は目安になります。

○=実務教員授業

△=高等教育無償化申請

FA 対面とオンライン併用での実施

科目名	○△絵画表現1・3	授業分野	絵を知る1・2・3・4
担当教員①	甲斐光省		
専門 実務経験等	専門:画家 「絵画研究会・朝の会」会員 / まんが計画展 1986年～1988年壁画工房所属 「デッサン新百科」執筆 2005年～2017年 アートマスターズスクール 絵画デッサン講師		
担当教員②	齊藤有紀		
専門 実務経験等	専門:絵画・イラスト 2010年より個展、グループ展多数開催。2014年～2015年テレビ朝日「世界が愛した絵本」番組連動企画スペシャルイベントなどでワークショップ。2009年～現在、小鹿野町おこしイベント「路地 ST」や「花祭りアート市」への出展、アート&コミュニケーション「あそびの学校」講師スタッフなど数多くの地域アート活動。		
授業内容 および 到達目標	到達目標:①美術史に残る様々な絵を知る ②自分の絵を知る ③自分の絵を生かす方法を知る 具体的な作業:①様々な絵の技法、絵に対する考え方を知り、その絵が何を表現しているかを知る ②歴史に残る絵を知る事で、自分の絵がどのような絵の文脈に属するものであるかを知る ③自主制作および個別指導により各自の表現を深める④ポートフォリオの制作		
授業内容詳細・進行			
〈前期〉1週	教室と制作場所を整備／前期スケジュール確認／前期個人制作目標を考える(シート配布&記入)		
2週	個人面談 キャンバスの準備		
3週	個人面談 テーマの確認		
4週	制作		
5週	制作		
6週	制作		
7週	美術館見学		
8週	中間チェック(絵画表現 1・2合同)		
9週	個人制作指導／ポートフォリオ制作指導①(夏課題説明)		
10週	個人制作指導／ポートフォリオ制作指導②(作品撮影)		
11週	個人制作指導／ポートフォリオ制作指導③(レイアウト、画像編集)		
12週	前期合評前／プレゼンテーション内容指導		
〈後期〉1週	後期スケジュール確認／後期個人制作目標を考える(シート配布&記入)		
2週	講義「美術の中の解剖学」		
3週	講義「美術の中の心理学」		
4週	個人制作指導／卒業制作指導①		
5週	個人制作指導／卒業制作指導②		
6週	学園祭展示指導(絵画表現 3・4合同)		
7週	絵を知る③／美術館企画展見学(絵画表現 3・4合同)		
8週	何を見たか③／美術展見学レポート発表		
9週	卒業制作中間プレゼン(絵画表現 3・4合同)		
10週	個人制作指導／卒業制作指導③		
11週	個人制作指導／卒業制作指導④		
12週	個人制作指導／卒業制作指導⑤／卒制審査前作品チェック		
〈制作期〉1週	制作期スケジュール確認／制作期個人制作目標を考える(シート配布&記入)		
2週	修了制作指導①／卒業制作指導⑥		
3週	修了制作指導②／卒業制作指導⑦		
4週	修了制作指導③／卒業制作指導⑧／合評・卒展前作品チェック		
初回持参物	筆記用具／描画用具／材料		
準備学習	普段から美術作品について興味を持っておくこと。		
成績評価方法 および 注意事項	歴史に残る絵、同時代の様々な絵を知る事が、自分の描いている絵、描くべき絵を知る事につながります。 見学後のレポートと発表内容も評価対象ですが、個人指導にて制作する作品の内容が主たる評価対象です。 成績評価(100点評価): 100～90点:秀 / 89～80点:優 / 79～70点:良 / 69～60点:可 / 59点以下:不可		

FA 対面とオンライン併用での実施

科目名	絵画表現2・4	授業分野	絵を生かす1・2
担当教員	羽賀洋子		
専門 実務経験等	専門:画家 1995年～現在 小学生から高校生までを対象とした「アトリエあのむ」を主宰、指導 2006年～2010年 三戸美奈子カリグラフィ教室「ドローイングクラス」担当 2010年～2013年 プラザノース自主事業開講講座ノース・パレット「パステル画講座」「アクリル画講座」担当 東京を中心とした画廊企画個展 13回とグループ展、音楽とのコラボレーション展を中心に作品を発表。 「絵の具とあそぶ」練馬区美術館 2006年ほか さまざまなワークショップイベントを担当		
授業内容 および 到達目標	到達目標:自分が制作した絵を生かす＝自分の作品が使われる場を制作を通して模索しながら、自己の表現を高める。 具体的な作業:自主制作により、自分の絵の特性を生かす場や文脈に即した表現を磨く。		
授業内容詳細・進行			
〈前期〉	1週 講師の作品と活動を知る／絵を生かす① 2週 各自制作テーマを考える／絵を生かす② 3週 個人制作指導 4週 個人制作指導 5週 個人制作指導 6週 絵を生かす③ 7週 個人制作指導 8週 中間チェック(絵画表現 1・2合同) 9週 個人制作指導 10週 個人制作指導 11週 個人制作指導 12週 前期合評会前／プレゼンテーション内容指導		
〈後期〉	1週 各自の制作テーマを考える／絵を生かす④ 2週 個人制作指導／卒業制作指導① 3週 個人制作指導／卒業制作指導② 4週 個人制作指導／卒業制作指導③ 5週 個人制作指導／卒業制作指導④ 6週 学園祭展示指導(絵画表現 3・4合同) 7週 絵を生かす④／美術館企画展見学(絵画表現 3・4合同) 8週 個人制作指導／卒業制作指導⑤ 9週 個人制作指導／卒業制作指導⑥ 10週 個人制作指導／卒業制作指導⑦ 11週 個人制作指導／卒業制作指導⑧ 12週 自己点検／自己評価 自分の絵の生かし方を見つけたか？		
〈制作期〉	1週 修了制作指導①／卒業制作指導⑨ 2週 修了制作指導②／卒業制作指導⑩ 3週 修了制作指導③／卒業制作指導⑪ 4週 修了制作指導④／卒業制作指導⑫		
初回持参物	筆記用具／描画用具／材料		
準備学習	現在興味のある作家や美術展、今後の抱負などについて話せるように内容をまとめておく。		
成績評価方法 および 注意事項	出席と制作内容、意欲が評価ポイント 成績評価(100点評価): 100～90点:秀 / 89～80点:優 / 79～70点:良 / 69～60点:可 / 59点以下:不可		

FA 対面とオンライン併用での実施

科目名	○△絵画表現演習1-1・2-1	授業分野	古典技法画1・3
担当教員	崔恩景		
専門 実務経験等	専門:美術家 株式会社クサカベ社に1990年9月から現在まで勤務 1990年から1997年までは、「テンペラ画の描き方のテキスト」作成および「テンペラ画セット」作成 油絵具のパッケージ画、油絵具の色見本制作。1997年から2000年まではパリにて絵画制作。 2000年から現在までは、営業部所属員として絵画講師。		
授業内容 および 到達目標	絵を描くことの喜びのひとつは、描いていく過程を楽しむことにあります。 この授業では、絵画を支えている支持体と地塗りと絵の具の特徴を学びます。 特に中世絵画のなかでのテンペラ画の模写を通して、制作過程を体験し、自分の制作に生かすことを試みます。		
授業内容詳細・進行			
〈前期〉	1週 絵画技法の基礎について(テンペラ画技法について)[講義/実習]白亜地作り(木版に布を貼る/ F3) 2週 白亜地作り(講義/実習/地塗りをする) 3週 白亜地作り(白亜地磨き)、模写する画の転写[講義/実習] 4週 テンペラ絵具作りと制作(ハッチングに関する説明)[講義/実習]テンペラメディウム作り 5週 テンペラ絵具による制作 6週 // 7週 // 8週 // 9週 // 10週 // 11週 // 12週 テンペラ絵具による制作/講評		
初回持参物	筆記用具/切れ味の良いハサミ		
準備学習	特になし。		
成績評価方法 および 注意事項	出席状況と実習作品の完成度による評価 成績評価(100点評価): 100~90点:秀/89~80点:優/79~70点:良/69~60点:可/59点以下:不可		

FA 対面とオンライン併用での実施

科目名	絵画表現演習1-1・1-2・2-1・2-2	授業分野	総合制作A-1・2・3・4
担当教員	手塚真梨子		
専門 実務経験等	専門:画家 2018年 個展 「さわるものとさわられるもの」銀座 Gallery Bar Kajima / 「え という名前の喫茶店」銀座 あかね画廊 2017年 個展 「ウィリアムス浩子 LoveCallsForちあきなおみ」お茶の水 アートギャラリー884 「ウィリアムス浩子 LoveCallsForちあきなおみ」新宿 ル トリアングル など		
授業内容 および 到達目標	絵がどのようなものでありうるか、絵を社会の中でどのように生かしていくか、講師の実例から学ぶ。 制作は自主制作中心で個別指導。 授業始めに準備運動としてドローイング。五感を意識したきっかけを元に行います。 到達目標……可能性、適性の発見。絵画制作を通して、自身の次の展開を見つける。		
授業内容詳細・進行			
〈前期〉	1週 制作場所を整備／講師の作品と活動を知る／自己紹介 2週 制作／個人指導／ドローイング(目 -見る) 3週 制作／個人指導／ドローイング(鼻 -嗅ぐ) 4週 制作／個人指導／ドローイング(口 -話す) 5週 制作／個人指導／ドローイング(耳 -聴く) 6週 制作／個人指導／ドローイング(顔) 7週 制作／個人指導／ドローイング(手 -触れる) 8週 制作／個人指導／ドローイング(足 -歩く) 9週 制作／個人指導／ドローイング(人物 ...人のある風景、空間) 10週 制作／個人指導／ドローイング(空間 ...人のない風景、不在の存在感) 11週 制作／個人指導／ドローイング(時) 12週 合評会(予定)		
〈後期〉	1週 後期の展望・目標設定／自分に見せるポートフォリオ作り①／卒業制作指導① 2週 制作／個人指導／自分に見せるポートフォリオ作り②／卒業制作指導② 3週 制作／個人指導／自分に見せるポートフォリオ作り③／卒業制作指導③ 4週 制作／個人指導／自分に見せるポートフォリオ作り④／学園祭展示準備①／卒業制作指導④ 5週 制作／個人指導／学園祭展示準備②／卒業制作指導⑤ 6週 制作／個人指導／学園祭展示準備③／卒業制作指導⑥ 7週 制作／個人指導／卒業制作指導⑦ 8週 制作／個人指導／卒業制作指導⑧ 9週 制作／個人指導／卒業制作指導⑨ 10週 制作／個人指導／卒業制作指導⑩ 11週 制作／個人指導／卒業制作指導⑪ 12週 制作／個人指導／卒業制作指導⑫		
〈制作期〉	1週 修了制作指導①／卒業制作指導⑬ 2週 修了制作指導②／卒業制作指導⑭ 3週 修了制作指導③／卒業制作指導⑮ 4週 修了制作指導④／卒業制作指導⑯		
初回持参物	アトリエ作りが必要と思うもの(絵具、鉛筆、ノート、憧れのひとの写真、行ってみたい国の写真や絵葉書、気に入っている詩、物語...自己紹介のときにぜひ見せてくださいね)		
準備学習	特になし		
成績評価方法 および 注意事項	出席と、制作に向かう姿勢で成績評価をします 成績評価(100点評価): 100~90点:秀 / 89~80点:優 / 79~70点:良 / 69~60点:可 / 59点以下:不可		

FA 対面とオンライン併用での実施

科目名	絵画表現演習1-1・1-2・2-1・2-2	授業分野	総合制作B-1・2・3・4
担当教員①	大城夏紀		
専門 実務経験等	専門:画家 2012年大学院修了後も、画家として活動を続ける。 2012年～2013年 株式会社ノートンリミテッド(ギャラリーにて展覧会に関する業務全般) 2013年～現在「絵画教室 tabunoki」主宰		
担当教員②	齊藤有紀		
専門 実務経験等	専門:絵画・イラスト 2010年より個展、グループ展多数開催。2014年～2015年テレビ朝日「世界が愛した絵本」番組連動企画スペシャルイベントなどでワークショップ。2009年～現在、小鹿野町おこしイベント「路地 ST」や「花祭りアート市」への出展、アート&コミュニケーション「あそびの学校」講師スタッフなど数多くの地域アート活動。		
授業内容 および 到達目標	絵がどのようなものでありうるか、絵を社会の中でどのように生かして行くかを学ぶ。 絵具の具体的な使い方、発表の仕方、作品の見せ方など。制作は自主制作中心で個別指導。		
授業内容詳細・進行			
〈前期〉 1週～12週	主に自主制作と個人指導。 絵具の具体的な使い方、発表の仕方、作品の見せ方などを、同年代の作家の実例を見ながら学ぶ。		
〈後期〉1週	後期の展望・目標設定／ポートフォリオ①(夏課題提出)		
2週	就職ガイダンス(就活基本)／ポートフォリオ②(添削)		
3週	制作／個人指導／ポートフォリオ③(ブラッシュアップ)		
4週	制作／個人指導／展示計画(2年生:FESTA/3年生:卒展)		
5週	制作／個人指導／クリエイターが知っておく権利について		
6週	制作／個人指導／Photoshop&Illustrator復習①(名刺作成)		
7週	制作／個人指導／学園祭展示確認		
8週	制作／個人指導／下半期スケジュールを考える(to do リスト作成)		
9週	制作／個人指導／作品の発表の仕方、活動例について		
10週	制作／個人指導／Photoshop&Illustrator復習②(DM作成)		
11週	制作／個人指導／Photoshop&Illustrator復習③(提出データ添削)		
12週	制作／個人指導／審査前チェック／冬期学習期間計画		
〈制作期〉1週	修了制作指導／卒業制作指導		
2週	修了制作指導／卒業制作指導		
3週	修了制作指導／卒業制作指導		
4週	修了制作指導／卒業制作指導		
初回持参物	筆記用具／描画材料		
準備学習	特になし。		
成績評価方法 および 注意事項	出席と制作内容、意欲が評価ポイント 成績評価(100点評価): 100～90点:秀/89～80点:優/79～70点:良/69～60点:可/59点以下:不可		

FA(学術造形科目と合同)対面での実施

科目名	絵画表現演習1-1・1-2・2-1	授業分野	油彩画(人物・風景・静物)1・2・3
担当教員	金子修		
専門 実務経験等	専門:油彩画 1984年～現在 洋画家「絵画研究会・朝の会」会員		
授業内容 および 到達目標	【前期】油彩画には長い歴史がありますが、その表現の可能性を理解するために、伝統的な考え方や方法に基づいて静物画や人物画を制作します。画材の扱い方を理解し、絵の具を混ぜて色を作ることで明度・彩度・色の調和に対する感覚を身につけることが目標です。【後期】前期に引き続き、西洋の伝統的な考え方や方法に基づいて静物画・風景画・人物画を制作します。後期は空気遠近法による空間表現や構図法についても学びます。絵の具の明度・彩度・色相を自由にコントロールでき、安定した構図と正確な空間やボリュームが表現できることが最終目標です。		
授業内容詳細・進行			
〈前期〉			
1週～3週	【カマイユ(モノトーン)静物画:油彩画の画材と技法に慣れる/明度の感覚を養う] 白とこげ茶の2色のみを使って、6号のキャンバスに静物の単色画を週で1枚制作。 初回、油彩画の歴史概要・画材の説明・キャンバス張りの実習後、制作開始。		
4週～7週	【静物画:混色に慣れる/彩度の感覚を養い、色と色の関係を理解する/塗り重ねの効果を理解する] 白・バートアンバー・カドミウムレッド・カドミウムイエロー・コバルトブルーの色を使って、10号のキャンバスに4週で静物画を1枚制作。単色画からはじめ、次第に現実の色と色の関係に等価になるように置き換えていく。低彩度・低明度差から高彩度・高明度差へと徐々に絵の具層を重ねていき、下に塗った絵の具の層を活かす油彩画の視覚的効果を理解する。		
8週～12週	【人物画:望みの明度・彩度・色相の色を自由に作れるようになる/影の色をコントロールできるようになる/透明・不透明な絵の具の使い方を理解する] 白・バートアンバー・カドミウムレッド・カドミウムイエロー・コバルトブルーの色を使って、12号のキャンバスに5週でヌード人物画を1枚制作。これまでに学んだ知識・技法をすべて使い、油彩画本来の制作過程を踏んで作画する。		
〈後期〉			
1週～4週	【静物画:望みの明度・彩度・色相の色を自由に作れるようになる] 白・バートアンバー・カドミウムレッド・カドミウムイエロー・コバルトブルーの色を使って、さまざまな明度・彩度・色相のものを組み合わせた静物画を0号のキャンバスに4週間で描く。 初回、油彩画の歴史概要・画材の説明・キャンバス張りの実習後、制作開始。		
5週～8週	【風景画:空気遠近法と構図法を理解する] 白・バートアンバー・カドミウムレッド・カドミウムイエロー・コバルトブルーの色を使って、蚕糸の森公園内の風景を10号のキャンバスに4週間で描く。		
9週～12週	【人物画:望みの明度・彩度・色相の色を自由に作れるようになる/影の色をコントロールできるようになる/透明・不透明な絵の具の使い方を理解する/画面構成を意識する] 白・バートアンバー・カドミウムレッド・カドミウムイエロー・コバルトブルーの色を使って、12号のキャンバスに4週で着衣人物画を1枚制作。これまでに学んだ知識・技法をすべて使い、油彩画本来の制作過程を踏んで作画する。		
初回持参物	筆記用具/木炭/油彩画道具一式:絵の具(ホワイト・バートアンバー・カドミウムイエロー・カドミウムレッド・コバルトブルー)/パレット/油壺/パレットナイフ/絵筆(豚毛平筆 12本程度:6・10・14号各4本)/溶剤(テレピン、リンシードオイル、ダンマルベインティングオイル)/筆洗/ぼろ切れ/石けん		
準備学習	(1) 油彩画材について調べておくこと (2) 14世紀から20世紀前半までの西洋絵画の概略を理解し、各時代の有名な作家と作品を頭に入れておくこと。		
成績評価方法 および 注意事項	出席状況と作品で評価。講義と実習は同時に行なう。特に油彩画の経験のある人は自分が今まで行なってきた描き方とは異なる場合がありますが、油絵本来の基本的技法と考え方を理解してもらうため、本講座では講師の指示する方法に従って下さい。 成績評価(100点評価):100～90点:秀/89～80点:優/79～70点:良/69～60点:可/59点以下:不可		

FA(学術造形科目と合同) 対面とオンライン併用での実施

科目名	○△絵画表現演習1-1	授業分野	版画1
担当教員①	馬場恵		
専門 実務経験等	専門:美術家 2018年 アーツ前橋 " Art Meets 05"にて作品発表。 2017年 三省堂書店 Naturalis Historialにてオリジナルブランドの展示会開催。 2015年+2013年 中之条ビエンナーレ参加 など。		
担当教員②	飯島まり子		
専門 実務経験等	専門:画家 2018年:IkebukuroArtGatheringAWARDS大賞受賞 2019年:個展(子の星/代官山) 2020年:武蔵野美術大学大学院版画コース修了		
授業内容 および 到達目標	学術造形科目と共通 (シルクスクリーンワークショップ F/銅版画F)		
授業内容詳細・進行			
	<p>【シルクスクリーン版画】</p> 1週 課題説明とプランニング 課題1:オリジナルポートフォリオのファイル制作・制作出来るファイルのバリエーション説明 2週 個々のポートフォリオのファイルデザイン決定 3週 ファイルプリント 4週 ファイルプリント・成形・完成 5～11週 課題2:2つの以下の課題から自分の挑戦してみたい内容を選択して制作 ①平面媒体の持つ可能性を追求 色の発色、重なり表現効果を生かした多色刷りの作品制作や、版画集や絵本制作など (使用素材:主に紙/制作する媒体:絵本、版画集、ポスター等) ②様々な素材へのプリントの挑戦 オリジナルグッズ制作などでの世界観の表現を追求する (使用素材:布/紙/アクリル板/フィルム類/木製板等) 12週 講評会 <p>【銅版画】</p> 1週 授業説明/技法説明/デモンストレーション 2週 基本的技法の体験 3週 課題①テーマ制作 4週 // 5週 // 課題①作品完成 6週 美術館見学(展覧会の状況により日程が変更になる場合があります) 7週 応用技法の体験/多色刷り、重ね刷りデモンストレーション 8週 課題②自由制作 9週 // 10週 // 11週 // 12週 // 課題②作品完成、講評		
初回持参物	エプロン/筆記用具/ポートフォリオ/本講座で制作したい作品の大まかなプラン		
準備学習	学術造形科目と共通 (シルクスクリーンワークショップ F/銅版画F)		
成績評価方法 および 注意事項	版表現への積極的なアプローチや自主性、計画した制作を最後まで仕上げる努力を評価。 各自、授業時間外にも版画工房を利用して作品を仕上げる事。 成績評価(100点評価): 100～90点:秀/89～80点:優/79～70点:良/69～60点:可/59点以下:不可		

FA 対面とオンライン併用での実施

科目名	絵画表現演習1-2	授業分野	版画2
担当教員①	馬場恵		
専門 実務経験等	専門:美術家 2018年 アーツ前橋 " Art Meets 05"にて作品発表。 2017年 三省堂書店 Naturalis Historialにてオリジナルブランドの展示会開催。 2015年+2013年 中之条ビエンナーレ参加 など。		
担当教員②	飯島まり子		
専門 実務経験等	専門:画家 2018年:IkebukuroArtGatheringAWARDS大賞受賞 2019年:個展(子の星/代官山) 2020年:武蔵野美術大学大学院版画コース修了		
授業内容 および 到達目標	前期に学造科目で習得したシルクスクリーン及び銅版画の技法を、個々の制作へ応用させる。 テクスチャーや技法を組み合わせアイデアを養うワークショップと、自身の表現を探求するテーマ制作を行う。		
授業内容詳細・進行			
〈後期〉	1週 課題説明／講師作品紹介／技法の展開のアイデアを考える 2週 ワークショップ1:偶然性を取り入れた作品制作 3週 製版、試し刷り 4週 製版、試し刷り／作品完成 5週 ワークショップ2:技法を組み合わせさせた作品制作 6週 製版、試し刷り 7週 製版、試し刷り／作品完成 8週 各自テーマを設定し制作(下絵準備) 9週 製版／試し刷り 10週 " " 11週 " " 12週 " "		
〈制作期〉	1週 本刷り 2週 " " 3週 " " 4週 作品の完成／講評		
初回持参物	エプロン／筆記用具／エスキースブック		
準備学習	前期に制作した版画作品を見返して、この授業でどのような制作をしたいか考えてくること。		
成績評価方法 および 注意事項	興味のあるテクスチャーや表現への積極的なアプローチ、計画した制作を最後まで仕上げる努力を評価。 課題を授業内で終了できない場合、各自版画工房を利用し作品を仕上げる。 成績評価(100点評価): 100～90点:秀 / 89～80点:優 / 79～70点:良 / 69～60点:可 / 59点以下:不可		

FA 対面とオンライン併用での実施

科目名	絵画表現演習2-1	授業分野	版画3
担当教員①	馬場恵		
専門 実務経験等	専門:美術家 2018年 アーツ前橋 " Art Meets 05"にて作品発表。 2017年 三省堂書店 Naturalis Historialにてオリジナルブランドの展示会開催。 2015年+2013年 中之条ビエンナーレ参加 など。		
担当教員②	飯島まり子		
専門 実務経験等	専門:画家 2018年:IkebukuroArtGatheringAWARDS大賞受賞 2019年:個展(子の星/代官山) 2020年:武蔵野美術大学大学院版画コース修了		
授業内容 および 到達目標	2年次に絵画表現演習 1 版画1-2で習得した、シルクスクリーン及び銅版木の版画技法を卒業制作へむけて応用展開させていく。版画とその他の手法を用いた併用技法を習得し、版を使用した表現の確立を目指す。)		
授業内容詳細・進行			
	1週 授業説明／講師作品紹介／各自のアイデアを考える。 2週 ワークショップ:併用技法 3週 製版、試し刷り 4週 〃 5週 〃 6週 作品完成 7週 各自テーマを設定し制作／テーマに対する個々のアプローチを検証(下絵準備) 8週 製版、試し刷り 9週 〃 10週 〃 11週 〃 12週 作品完成／講評		
初回持参物	エプロン／筆記用具／エスキースブック		
準備学習	2年次に制作した版画作品を見返して、この授業でどのような制作をしたいか考えてくること。		
成績評価方法 および 注意事項	版表現への積極的なアプローチや自主性、計画した制作を最後まで仕上げる努力を評価。 卒業制作は、各自、授業時間外にも版画工房を利用して作品を仕上げる事。 成績評価(100点評価): 100～90点:秀 / 89～80点:優 / 79～70点:良 / 69～60点:可 / 59点以下:不可		

FA 対面とオンライン併用での実施

科目名	絵画表現演習2-2	授業分野	版画4
担当教員①	馬場恵		
専門 実務経験等	専門:美術家 2018年 アーツ前橋 " Art Meets 05"にて作品発表。 2017年 三省堂書店 Naturalis Historialにてオリジナルブランドの展示会開催。 2015年+2013年 中之条ビエンナーレ参加 など。		
担当教員②	飯島まり子		
専門 実務経験等	専門:画家 2018年:IkebukuroArtGatheringAWARDS大賞受賞 2019年:個展(子の星/代官山) 2020年:武蔵野美術大学大学院版画コース修了		
授業内容 および 到達目標	2年次、3年次前期で学んだシルクスクリーン及び銅版画の版画技法を用い、卒業制作として完成されたものにする。版画という技法を習得応用し、自身の表現を確立させる。		
授業内容詳細・進行			
〈後期〉	1週 卒業制作へ向けてのプランニング 2週 各自テーマを設定し、卒業制作(下絵準備) 3週 製版/刷り 4週 〃 5週 〃 6週 〃 7週 〃 8週 〃 9週 〃 10週 〃 11週 〃 12週 中間講評		
〈制作期〉	1週 本刷り 2週 〃 3週 〃 4週 作品の完成/講評		
初回持参物	エプロン/筆記用具/エスキースブック		
準備学習	これまでに制作した版画作品を見返して、どのような制作をしたいか考えてくること。同時に、制作スケジュールについても考えてくること。		
成績評価方法 および 注意事項	版表現への積極的なアプローチや自主性、計画した制作を最後まで仕上げる努力を評価。 卒業制作は、各自、授業時間外にも版画工房を利用して作品を仕上げる事。 成績評価(100点評価): 100~90点:秀/89~80点:優/79~70点:良/69~60点:可/59点以下:不可		

FA 対面とオンライン併用での実施

科目名	修了制作	授業分野	修了制作
担当教員	絵画表現コース2年生 担当教員		
専門 実務経験等	専門:各教員の担当授業を参照		
授業内容 および 到達目標	これまで学んだテーマの探し方、描く技術、絵の使い方などの達成度を示す。 3年生の次のステップに跳躍する踏み台となるような制作をこころがける。		
授業内容詳細・進行			
	<ul style="list-style-type: none"> ○修了制作で決めるべきことから <ul style="list-style-type: none"> ①テーマ(たとえば「冬の気配」) ②描くモチーフ(たとえば「近所の雑木林の風景」) ③メディア(リアル画、空想画、版画、絵本、図鑑、イラストなど) ○制作スタイルは次のどちらか <ul style="list-style-type: none"> ①後期の制作を持続展開 ②あらたなテーマ、モチーフ、メディアで制作 ○指導体制 <ul style="list-style-type: none"> ①全体のコントロール＝ 絵画表現1[絵を知る]と絵画表現2[絵を生かす] ②制作指導＝絵画表現演習 1の全授業 ○制作期間:制作期 4週間 ○プレゼンテーションと審査:絵画表現コース 2年アトリエでプレゼンテーションおよび審査を行う。 		
初回持参物	筆記用具／描画材料など		
準備学習	図書室で自分の制作の参考になりそうな本を見つけておくこと。		
成績評価方法 および 注意事項	技術力／表現力／文脈力(自分の絵が社会のどの場面で生かせるのかをわかる力) およびプレゼンテーションで評価する。 成績評価(100点評価): 100～90点:秀 / 89～80点:優 / 79～70点:良 / 69～60点:可 / 59点以下:不可		

FA 対面とオンライン併用での実施

科目名	卒業制作	授業分野	卒業制作
担当教員	絵画表現コース3年生 担当教員		
専門 実務経験等	専門:各教員の担当授業を参照		
授業内容 および 到達目標	これまで学んだテーマの探し方、描く技術、絵の使い方などの達成度を示す。 卒業後の次のステップに跳躍する踏み台となるような制作をこころがける。		
授業内容詳細・進行			
	<ul style="list-style-type: none"> ○卒業制作で決めるべきことから <ul style="list-style-type: none"> ①テーマ(精神的内容=たとえば「生きる喜び」) ②描くモチーフ(具体的対象=たとえば「東京の日常生活」) ③メディア(リアル画/ファンタジー画/抽象画/版画/デジタル描画/ピクチャブックなど) ○制作スタイルは次のどちらか <ul style="list-style-type: none"> ①前期の制作を持続展開 ②あらたなテーマ、モチーフ、メディアで制作 ○指導体制 <ul style="list-style-type: none"> ①全体のコントロール= 絵画表現3[絵を知る]と絵画表現4[絵を生かす] ②制作指導=絵画表現演習2の全授業 ○制作期間:後期12週間+制作期4週間 ○展示:絵画表現コース3年アトリエで展示。学生自身で展示作業を行う 		
初回持参物	筆記用具/描画材料など		
準備学習	2年生までに制作した作品をまとめておくこと。		
成績評価方法 および 注意事項	技術力/表現力/文脈力(自分の絵が社会のどの場面で生かせるのかをわかる力)		
	成績評価(100点評価):100~90点:秀/89~80点:優/79~70点:良/69~60点:可/59点以下:不可		